



左から深海理事長、嶋田防犯対策部会長、萩原課長代理、吉田氏

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



No.69

2024.4.15

発行人 深海 信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
https://www.toukenkumiai.com/

第69号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大平 岳子 嶋田 伸夫 清水 儀孝
生野 正 新堀 孝道 瀬下 明 土子 民夫
綱取 謙一 土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦
松本 義行 冥賀 吉也 持田 具宏 吉井 唯夫

東京都庁 訪問記

刀剣類の登録事務について意見交換

令和六年二月五日は、寒の降る寒い日となった。当組合の深海信彦理事長と嶋田伸夫防犯対策部会長は、東京都教育庁地域教育支援部管理課を訪ね、萩原元課長代理と登録審査事務担当の吉田公道氏と面談し、登録証に関する諸問題を話し合った。以下は、この席に立ち会った記者のレポートである。

萩原氏は現在の職務を担当して二年ほどという。月一回の銃砲刀剣類登録審査会にも立ち会って、現状把握と改善に積極的な方であった。吉田氏は登録審査業務の責任者で、平素お世話になっている。

さて今回の面談では、全国の

刀剣関係の方々から寄せられた情報や要望から浮かび上がるさまざまな登録証問題をまとめたレジュメをお渡しし、一つ一つ説明しながら、意見を交換した。

①刀剣を載せる台について
まず、刀剣の現物確認の時、研磨の施された刀と錆身の刀を同じ台に載せて計測することについて。研磨してある刀を傷つけない、錆びさせないように配慮が必要ではないか、そしてそのために、台を二つ用意して使い分けしてはどうかと提案した。

②登録内容の情報開示と現物確認
登録証の内容(刃長・反り・銘文・目釘穴数)が一致している日付の一部が異なる場合については、訂正などの手続きを簡素化することができないだろうか、と質問すると、都は原票と照合、さらには登録証のコピーを送ってもらって対応しているが、原票と登録証が一致し、現物と異なっている場合、やはり簡単に直せないし、内容確認が必要になるという。

③内容確認と職員不在
電話で登録証の内容確認をする際に、休暇や休憩で担当者がおらず、そして担当者は一人しかいない、ということでも、買い取りの際にとても困ることがあることを伝えた。各都道府県の登録事務担当が専任一人のみというケースは多く、例えば、金曜日に関係を合せて担当者が不在で、確認が月曜日になるなどというケースもあり、なるべくサブの人を置いて、対応してほしいと要望を伝えた。

この時、約三十年前の登録業務を振り返り、その仕事量が何倍にも増え、多忙を極めていたことが話題となった。深海理事長によれば、それは平成三年以来の組合発行の『やさしいかた

い分けするのは時間的に難しいかもしれないので、事前にご相談いただければ、という。そこで

深海理事長が、台はどのようなものを、どんな風に用いているのか質問すると、木の台の上そのまま載せているという。そこで吉田氏が台を持参し、一同あらためてそれを観察した。

はなにか、そうすれば、他の刀を載せた際に付いた錆も除去できると提案。そこで、今後は刷毛で計測台をよく掃除しよう、刷毛を使うことだけでも文化財保護の姿勢が明確になり、それはとても良いということになった。

令和五年十月上旬、一般社団法人共同通信社の調査結果の公表を受けた各地方新聞が、行方を把握できなくなっている都道府県指定の文化財が全国で二五一件あり、その大半が刀剣類であることを一斉に報じた。今回報じられた、所在不明となっている各県指定の刀剣類はいずれも個人所有です。相続や売買、所有者の転居等が原因で保管場所が移動し、所在をたどることができなくなったもので、栃木県、静岡県ともに一八件に上ります。

静岡県文化財課 〇二八-一六三-三四二四
〇二八-一六三-三三二五
〇二八-一六三-三三二五
〇二八-一六三-三三二五

栃木県・静岡県からのお願いです 行方不明となった県指定刀剣類の 発見にご協力ください

令和五年十月上旬、一般社団法人共同通信社の調査結果の公表を受けた各地方新聞が、行方を把握できなくなっている都道府県指定の文化財が全国で二五一件あり、その大半が刀剣類であることを一斉に報じた。今回報じられた、所在不明となっている各県指定の刀剣類はいずれも個人所有です。相続や売買、所有者の転居等が原因で保管場所が移動し、所在をたどることができなくなったもので、栃木県、静岡県ともに一八件に上ります。

栃木県文化振興課文化財保護担当

〇二八-一六三-三四二四
〇二八-一六三-三三二五
〇二八-一六三-三三二五

静岡県文化財課

〇二八-一六三-三四二四
〇二八-一六三-三三二五
〇二八-一六三-三三二五

田中勝憲 代表
古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
(株)城南堂古美術店
〒153-0051 東京都目黒区上目黒四-1-10
TEL 03-371-0011
TEL 03-371-0011
TEL 03-371-0011
TEL 03-371-0011

刀買取委託 e-sword
〒350-1115 埼玉県川越市野町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp
(株) e-sword 平子誠之

和敬堂 刀剣・書画・骨董
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

高吉 刀剣
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川 7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

日本刀・刀装具 販売・買取
創業 38年 株式会社 美術刀剣 松本
代表取締役 松本義行
Tel.03-6456-0889
東京西葛西店/東京都江戸川区西葛西6丁目13-14丸清ビル3F
刀剣松本 謹啓

刀 剣 界

「所有者変更届を出しませう」の影響も大きいという。また発見届と受理は警察の仕事で、登録は文化行政だが、教育委員会は不正登録問題の解決に携わっており、いわば警察の業務と文化行政の両方に関わっているとも言え、また東京都は発見届出数と刀剣愛好者が多いので、多忙となるのは必然。われわれの知らない苦勞を今更ながらに知った。

④返却済み登録証のこと
「この登録証は既に返却されているので無効だ」とされるケースも話題になった。輸出した後の未返還登録証、再発行後に見つかった紛失登録証の未返還の問題は、都庁が捜査する機関ではないところから対応は難しい。未返還登録証と輸出に關連し、外国からの輸入刀剣の登録問題も話題になった。この件については「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」も注視していることが話題になった。

⑤デジタルカメラの導入
今後の登録証交付についても提案した。登録時にデジタルカメラで茎の写真を撮影してデータを保存することで、業務を簡便化できるのではないかと考えた。これについては東京都もよく理解しており、他県の登録の刀の内容確認の際にはデジタルカメラでの撮影をしているとのことであった。ならば全面導入かというところ、これも容易ではないらしい。というのも、デジタルカメラでの撮影は簡単だが、その後のデータ処理や台帳との照合ができるシステムの構築は、データも膨大になること

から今すぐには対応できないというのである。ただ、それでも将来的にデジタル化を進めることに理解はあるようだった。

⑥特別な登録証に対する愛着への配慮
登録証の発行された都道府県と発行年（昭和二十六年など）に対するこだわりや愛着についての配慮も提言。東京都だけでは対応できないことではあるが、所持者の思いや気持ちはわかるという。

⑦登録事務担当者会議について
また、都道府県の登録事務担当者の会議が年一回十一月ごろに開催されていることも知った。業務上の課題など情報を交換し、良い所は採るのも有意義だし、大いに情報を交換して業務改善に生かしてほしいと思っただ。例えば現在、東京都は登録の費用を電子マネーで支払えるようにしているが、これも昨今同会議で話題になったという。先に触れた計測台を刷毛で掃除することも情報として共有できれば良いのではあるまいか。

話し合いを終えて
平素、登録事務では何かとお世話になっている教育庁の萩原課長代理、現場リーダーの吉田さんとの二人と面談したことで、東京都が法令を遵守しながら、誠実に登録事務に取り組んでおられることが大変よくわかった。また、刀剣関係者側からの問題点や疑問を先方に伝え、できることからやっていきますよという思いを共有できたことは意義深かった。

外へ出ると、霧は既に重たい雪に変わっていた。(T・K)

組合こよみ (令和6年1~3月)

- 1月11日 服部副理事長と清水専務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 16日 東京美術倶楽部において理事懇談会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・新堀理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・飯田相談役
- 17日 伊波副理事長と嶋田常務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 23日 清水専務理事と嶋田常務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 23日 刀剣の評価査定のため綱取常務理事と持田理事が神奈川県に出張
- 25日 銀座長州屋において『刀剣界』第68号（再校）編集委員会
- 25日 嶋田常務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 30日 新橋亭において第6回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・冥賀監事・瀬下昌彦氏・服部一隆氏・新堀賀将氏・土子民夫氏
- 2月5日 深海理事長と嶋田常務理事が東京都庁を訪問し、登録証問題等について担当者との会談
- 13日 嶋田常務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 16日 東京美術倶楽部において編集委員会を開催。『刀剣界』第69号（企画）と『やさしいかたな』改訂版について検討
- 21日 都道府県教育委員会へ刀剣採寸時に使用する刷毛を送付
- 26日 清水専務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 27日 深海理事長と伊波副理事長が組合事務所において刀剣の評価査定
- 3月11日 「あけみちゃん基金」に寄託のため伊波副理事長・飯田理事・松本理事が産経新聞社を訪問
- 16日 東京美術倶楽部において第7回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・新堀理事・瀬下理事・持田理事・吉井理事・大西監事
- 21日 服部副理事長と清水専務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 28日 清水専務理事と嶋田常務理事が組合事務所において刀剣の評価査定
- 29日 伊波副理事長と綱取常務理事が組合事務所において刀剣の評価査定



全国にはまだ登録されていない刀剣類や、登録証を紛失してしまつたなどの事例が少なからず存在しています。都道府県の登録審査会場には、そのような刀剣類を持った人々が一抹の不安を抱えて来場しています。

登録審査の際、審査委員は刀剣の長さ・反りを計るのにはほぼ同様な計測台を使用しています。中にはかなり錆びている刀もあり、錆びている刀の後に、研磨済みの刀を同じ計測台の上に置くと、錆が

全国の教育委に組合から刷毛を寄贈

付着して表面を傷つけかねません。また、拭う際にも、余程注意しないと、次に拭う刀剣を傷つける危険性があります。

審査の終了後に、所有者が刀剣を見て、審査の前にはなかった傷が付いてしまったと、教育委員会と争いになったこともあります。

この度の東京都教育委員会との面談の中で、刀剣類審査の際、刀剣ごとにその都度、計測台の上を刷毛で掃いていただけませんかという案が出たところ、早速、採用していただきます。

これを踏まえて、当組合ではこの度、刀剣登録審査の際に使用する計測台を掃くための刷毛を選定し、四十七都道府県の教育委員会へ二個ずつお送りしました。

試験的に使用していただき、その刷毛が所期の動きを発揮するか、判断願えればと存じます。改善点については、今後の課題とさせていただきます。

お送りした結果、連日、お礼のご連絡をいただくことも、二つの機関からは刷毛が返送されてきました。併せて謝意と最善の方法を検討中との報告も伝えていただきました。

登録審査は、日本刀を後世へ伝えていく重要な文化行政の仕事です。当組合では今後とも、行政に協力しつつ、日本刀の保護と普及を目指して組合員全員で取り組んでいきたいと思っております。(嶋田伸夫)

白鞘は奇跡と言われるほど長い期間を使用してきたため、劣化は限界にあり、五カ年計画で十四口の白鞘を順次新調していく。

本プロジェクトに参画する職方は、森井敦央(鞘師)・遠山和康(柄巻師)・中田晃司(白銀師)の三氏。また、「刀剣乱舞ONLINE」の賛同も得られている。

返礼品には、「ソハヤノツルキ」白鞘の写しや「真恒」の拵の復元模造に

新調対象：徳川将軍所有・寄進の14口の刀剣白鞘

資料名	時代	指定	備考
太刀 妙純傳持ソハヤノツルキ (無銘 光世作)	鎌倉中期	重要文化財	家康所用
脇差 無銘 行光作	鎌倉末期	重要文化財	家康所用
脇指 無銘 貞宗作	南北朝	重要文化財	家康所用
太刀 銘 真恒	平安末期	国宝	秀忠寄進
太刀 銘 雲次	鎌倉末期	重要文化財	家光寄進
太刀 銘 國行	鎌倉中期	重要文化財	吉宗寄進
太刀 銘 末守	鎌倉後期	重要文化財	家重寄進
太刀 銘 守家	鎌倉中期	重要文化財	家治寄進
太刀 銘 國宗	鎌倉中期	重要文化財	家治寄進
太刀 銘 安則	鎌倉初期	重要文化財	家治寄進
太刀 銘 高口(實)	鎌倉初期	重要文化財	家齊寄進
太刀 銘 國宗	鎌倉中期	重要文化財	家齊寄進
太刀 銘 國行	鎌倉中期	重要文化財	家齊寄進
太刀 銘 正恒	平安末期	重要文化財	慶喜寄進



劣化が著しい将軍刀剣の白鞘

NEWS & TOPICS

久能山東照宮でクラウドファンディング開始

久能山東照宮は、鎌倉時代の三池典太光世作と伝える重要文化財「ソハヤノツルキ」や平安時代末期の国宝「真恒」をはじめ歴代将軍の名刀を創建以来、四百年以上所蔵し、守り続けてきた。

しかし、長い刀剣の歴史の中で老朽化は避けられず、その伝承が重大な危機に瀕しているところから、このほどクラウドファンディング「久能山東照宮『刀剣伝承』ソハヤノツルキなど歴代将軍の名刀に命の御衣を皆の手で」を立ち上げ、修復のために広く善意を募ることとなった。

急務であるのは真恒の拵修復と、将軍刀剣十四振の白鞘新調と

真恒の拵は既に四百年以上経過しており、手に取ると拵の生地や糸がすべて崩れてしまう。展示はおろか移動することもままならならず、当初は修理する予定だったが、現存していない技術や素材で作られているため、現代で修復可能か確認が持たないため、まずは復元模造の制作をする。

白鞘は奇跡と言われるほど長い期間を使用してきたため、劣化は限界にあり、五カ年計画で十四口の白鞘を順次新調していく。

本プロジェクトに参画する職方は、森井敦央(鞘師)・遠山和康(柄巻師)・中田晃司(白銀師)の三氏。また、「刀剣乱舞ONLINE」の賛同も得られている。

返礼品には、「ソハヤノツルキ」白鞘の写しや「真恒」の拵の復元模造に

実際に使用する生地、そして職人アーティストがチームとして集う株式会社 studio Floyd(フロイド)がプロデュースしたグッズのほか、イラストレーター三輪士郎さんによる「刀剣乱舞ONLINE」の刀剣勇士「ソハヤノツルキ」プロジェクト記念描き下ろしイラストを使用した特別返礼品など、全21コースが用意される。

■申込先 02422-8001 静岡市駿河区根古屋三九〇 久能山東照宮事務所 ☎0544-1371-2438 または久能山東照宮「刀剣伝承」ページ

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

登録事務の改善に関するご提案

全国刀剣商業協同組合
防犯対策部会総務委員会

刀剣の登録証にまつわる業務でいつも大変お世話になっております。登録証と原票の内容の不一致等について、さまざまなお考えの方がおられるようで、ご意見やご要望が当組合にも寄せられております。

ご意見・ご要望の多くは、一言でいえば、各都道府県での過去の登録の際に発生した、登録証の記載事項の誤記を原因とするトラブルの解決、事務手続きの簡便化です。既にお察しのことは存じますが、刀剣を取得した善意の第三者が、所有者変更届をしようとする時、登録証・台帳の不備や、台帳の電子化の作業中の入力ミスによる台帳不備により、困惑するケースが多発しているのです。

私どもは、そうした問題に対処するため、またデジタルカメラやパソコン、インターネット等IT環境の進歩した昨今の事情を踏まえ、登録時の原本作成や訂正再交付手続き等の見直しの時期が来ているのではないかと考えております。以下に要点を記させていただきますので、ご検討の程、お願い申し上げます。

①登録審査時における刀剣類の扱いについて

登録審査に参りますと、現物確認の際、刀剣に直接触れる計測台や袱紗が清潔なのだろうかと思われる方もいるようです。研磨の施されている刀剣に配慮することなく、一律に同じ計測台に載せることにより、刀身に細かな傷や錆が付く可能性があるというご意見です。刀剣が傷ついたり、錆が付いたりするのを防ぐため、錆びている刀剣類（たとえば倉庫などから発見されたばかりの、錆のある刀剣類）と研磨されていて錆びていない刀剣類を分けて計測台を使用すべきかと存じます。

②登録証の内容が合致して登録年月日が異なる場合の対応について

登録証の年月日の一部だけが異なっている場合、その対応は都道府県によってまちまちです。全国の都道府県教育委員会で意見交換していただき、許容される交付年をいつごろまでとするか等、対応の統一が必要ではないでしょうか。

しかも年月日の一部、例えば、〇月△日の月が異なる、日が違っている場合、実際はどうか現状ではお答えいただけません。しかし、年月日が台帳でどうなっているのか、秘密にすることにより、いかなる犯罪が防止されるのでしょうか。それもかねがね疑問だというご意見もあります。内容が合致して、単なる日付の誤記である可能性が高いのであれば、何月何日なのかお教えいただき、簡便な名義変更ができるよう希望いたします。

③登録業務の引き継ぎと業務の把握

新年度を迎える時期、各都道府県では登録業務の担当者が代わる場合があります。が、引き継ぎが不十分で、新任の方が刀剣の基礎的な知識のない場合も多く、登録証の内容確認や記載不備への対応、台帳の確認の際に不手際が生じ、必要以上の時間を費やすことがあります。年度替わりで担当者が交代しても業務が円滑に行われるよう、引き継ぎを十分に行っていただきたいと思っております。

また登録証の内容確認をする際、担当者が休みなどで不在の場合、内容確認ができないというケースもよくあります。内容確認は緊急を要することもありますので、いつ、いかなる場合でも対応できる態勢を整えていただきたいと思っております。

④訂正再交付の手続きの簡便化

登録証の内容がほぼ合っていて、登録証の改竄、偽造の可能性が低いことが明らかな場合でも、常に現物確認を強いられることに疑問があります。

現在、都道府県教育委員会の多くは、登録時の審査員の測定の誤り、記載の誤りが原因で登録証に不備がある可能性が高い場合でも、判で押したように、現物確認を指示します。しかし、状況を鑑みて、情報のやり取りをすることにより、現所有者に負担の少ない訂正、再交付の手続きが本当はできるのではないのでしょうか。

例えば、銘字や種別の誤記などの場合、現所有者からメールなどで送付してもらった茎のデジタル写真や鑑定書があれば、そのスキャンデータを台帳と照合すれば、登録審査会場にわざわざ足を運ぶことなく（審査会場での滞在時間は1時間から2時間になることがあり、ま

た往復の時間を考えると半日仕事となります）、登録証の不備と現品の銘字の確認ができるのではないのでしょうか。

⑤登録証の内容についての開示のお願い

刀剣の取得者は、名義変更や内容確認をした時、登録証の記載内容と原票との不一致などを初めて知ります。その際、何が不備で名義変更ができないのかを質問しても、現所有者には回答されないことが多いです。しかし、内容がどう異なっているのかを開示し、また現所有者と情報交換を行えば、再交付手続きが簡便になるのではないのでしょうか。

⑥新所有者の希望に沿った対処

刀剣の所有者の中には、刀剣そのものも気に入っているけれど、登録証が自身の出身地と同じであるから愛着があるなどの理由で、その登録証を特別に大事にしている人も少なくありません。しかし、登録証の不備があり、登録証を発行した都道府県教育委員会が誤記を認めない場合、多くは「記載と台帳の文言が違うので、今後は審査を受けた都道府県の指示に従ってください」と言われ、審査を受けた都道府県で再交付されてしまい、愛着のある都道府県の登録証ではなくなってしまふ場合があります。登録証に特別な愛着がある故に、その抹消を望まない人は大勢おります。所有者の希望を汲んだ対応ができないものでしょうか。

⑦登録審査員が読み取った銘文をその場で申請者と一緒に確認すること

登録審査委員は読み取った銘文を、登録に来た人に開示しない場合が多いです。それ故、誤読・誤記があっても気づかず、正しく記載されていると信じて帰宅し、後日（場合によっては数年後）、誤りが明らかになることがあります。そんな場合も当然、また現物確認が求められ、大変な手間暇です。

そのようなことにならないよう、登録審査委員の方は読み取った銘文と現物の銘文を、来場者とともに確認し、双方納得の上で登録証を発行していただきたいと思っております。

また後日、誤記が判明した場合に、速やかに訂正再交付ができるよう、登録時に必ず、茎をデジタルカメラで撮影し、台帳とともに記録することを提案させていただきます。

⑧既に返還されている登録証とその対応

刀剣を取得した後、登録証の内容確認をしたり、所有者変更届出書を提出した際、現在付されている登録証が、実は過去に返還されている事実が明らかになり、「無効です」と言われることがあります。善意の第三者である現所有者にとっては、なぜそんな事態になっているのか、返還されているはずの登録証が現実には付帯しているのはなぜなのか、全くわからないことです。が、責任は現所有者に求められ、現物確認を指示されます。

しかし、先に申し上げましたように、事情をよくよく聞いた上で、茎のデジタル写真と登録の内容を照合して確認し、現在付されている登録証を回収した上で、速やかに新しい登録証を再交付することは可能なのではないのでしょうか。ご検討を賜りたいと存じます。

昭和26年に始まった刀剣の登録業務ですが、原本作成にまつわる何らかの不備は少なからず発生しておりますし、また今後も必ず起こると思われまます。しかし登録審査の際に、今後はデジタルカメラで茎の撮影をして、写真をデータベースで検索できるようにしておけば、誤記入や入力処理ミスなどを後日、簡単に確認することができるように思われます。そうなれば、利用者も行政も楽なのではないのでしょうか。また現物鑑定審査の申し込みもデジタル化してはいかがでしょうか。

以上、登録証にまつわる問題点を述べさせていただきました。当組合もご意見を承りながら、改善にご協力できることがあれば、ぜひお手伝いさせていただきたいと考えております。

当組合といたしましては、お話し合いの叩き台とするべく、登録証に関する問題点の一部を列記した次第です。ご一読の上、何卒ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

(令和6年2月5日に東京都の担当者と面談した際、提案した全文です)

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株) 日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

大阪刀剣会
吉井唯夫
FAX 06-6663-1121
TEL 06-6663-1121
大阪府中央区日本橋二丁目一
FAX 06-6663-1121
TEL 06-6663-1121

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

アオバ企画(株)
高橋一
〒130-0012
墨田区大平四丁目二番八
FAX 03-3621-1111
TEL 03-3621-1111
MAIL aobakk@pj8.so-net.ne.jp

日本刀の
江戸屋
名品・名刀を販売
店主 **小暮昇一**
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1
TEL 074-914-2171
携帯 090-1316-2176
<http://www.goushuya-nihontou.com>

甲冑の話題

20

(二社)日本甲冑武具研究保存会

★海外活動の歴史と海外支部のご紹介

当会の創立は昭和三十七年五月十二日である。その四カ月後に機関誌『甲冑武具研究』を創刊し、現在二二四号に至っている。三十八年五月六日には赤城宗徳元農林大臣が初代会長に就任し、その後四人の会長を経て、現在は六代目会長の永田仁志氏である。

当会は、今年で創立六十二年を迎える。その長い歴史の中で、当会が海外において行ってきた活動を振り返ってみると、一九七二年にミュンヘン・オリンピック日本古武道文化使節団に参加、八五年にアメリカ・ニューヨークのJapan House Gallery「日本の変り兜展」に展示協力出品、八九年ベルギー・ユーロパリア'89日本祭・大名展「変り兜と陣羽織」に展示協力出品などを行ってきた。

また、二〇一八年には、毎年日本武道館で開催されている「鏡開き式」をロシアにおける日本年「日本におけるロシア年」開会式において開催すべく、ロシア、



ポリショイ劇場での鏡開き



来日した海外会員と交流

日本双方からの依頼を受け、モスクワのポリショイ劇場においてロシア人の方々十人にも大鏡等の甲冑装束を着ていただいで遂行できたことも、良い思い出である。

海外での日本甲冑の人氣はかねてよりあったが、当会としては、世界中の同好の人々に、より良い情報を発信したいと考え、一八八号(平成二十六年十二月発行)から巻末に要旨訳を掲載開始した。さらに平成二十八年度から日本在住のベルギー人、Jo Anseun氏を本部海外担当理事に迎え、同

二十九年には海外支部(Japanese Armor Society: JAS)を発足、ベルギー在住のLuc Taelman氏が初代支部長に就任した。三十年代からは同氏が本部理事に就任、また、カナダ在住のJohn Wee Tom氏が本部評議員に就任し、海外での当会の活動拠点が出来上がった。

海外支部からは「JAS YEAR BOOK」という素晴らしい甲冑に関する機関誌が発行されている。現在の第七巻まで発行されており、

り、その内容・装丁は好評を博している。

海外の会員は現在八十余名おり、ベルギー、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、南アフリカ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、シンガポール等、各国にまたがっている。二〇一八年には、海外支部主催のシンポジウム・視察ツアーとして、ヨーロッパツアーが開催された。

二〇年には、Japanese Legacy Symposium Grand Tour (Am

古聴 第11回 平面裁断と立体裁断 綱取譲一

二十年以上の時が経つのだろうか。当時、東銀座だった俺の職場にある若者がやって来る。高谷と名乗るその若者の勤め先は、山本寛齋事務所。アパレル関係だ。それらしく粋にベレー帽をかぶったハンサムガイだ(このころイケメンという言葉はなかった。「弊社で造るイベントに出るサムライたちの衣装を探している」とのこと。日時を決めていただいたので、在庫の籠手、脛当などの小具足類や、具足下着を用意することができた。

約束の日、高谷さんを先頭に二名続き、四人目に続いたのは山本寛齋代表で、大御所自らの印象だった。しかし、福島県南相馬市の甲冑コレクターのH氏の家を訪ねた時、H氏と寛齋さんが並んで屈託なく笑っている写真を見せられたことを思い出し、人との触れ合いを大切にしている気さくな人柄のスーパーデザイナーと聞いたことが現実味を帯びてくる。

ここで「アポルタージュ」という寛齋さんの半生をかけた催事の構想を聞かされた。中央二名のうち一名は藤井さんという方で、もう一名は名刺交換がなくお名前を失念してしまい、

リカツアー)が開催され、いずれのツアーにも、日本からの会員参加者を受けての素晴らしい交流が行われた。

二三年十一月には、海外支部の会員十八名が来日し、各地の甲冑関連施設を見学した。途中、東京において日本の会員を交え、本会主催の懇親会が開催され、あらためて海外支部の同好の方々との楽しい時間を共有した。

当会では本部や各支部ごとに毎月甲冑関連の例会を開催している

申し訳なく思っている。仮にXさんとしておく。

寛齋さんは俺と当店手代の豊田の緊張を解くため、キャスター椅子に座り損ない尻もちをつく古典ギャグを披露してくれるサービスぶりだったが、Xさんが籠手や脛当を自分の体に着けるのを離れたところから厳しい目でチェック、採用不採用を決めていった。

また、その翌月に開催の大刀剣市にも足を運んでくださり、同じように買い物をしてくれている。その時、寛齋さんの個人カードでの買い物や領収書の扱いを、師であろ寛齋さんにやさしい言葉で助言していたのが藤井さんだ。この方が事務所の中核をなすのだから、と感心させる少し大人びた雰囲気の人だった。

その藤井さんが当ブスを去る前にその目を奪われていたのは、白いモヘア地に赤い鳳凰を大きく配した陣羽織。柄を大きく配するのは遠くからの識別と活躍の目撃証言を導くためという実用と必然から来るものだが、彼らクリエイターたちのヒントにもなってきたことだろう。その藤井さんの「へー」という横顔を見た寛齋さんが口をはさむ。

が、本部ではコロナ禍での開催以来、WEB配信も行っている。この例会開催方法を使用することによって、世界中の会員にも例会配信ができることになった。

今後は、機関誌の翻訳等にも力を入れ、さらに、海外の会員の増強を図ろうと思っている。日本文化の華の一つとして、日本の刀剣などとともに、日本の甲冑の素晴らしい世界の人々に伝え、紹介したいものである。(副会長 松本國彦)

「おい、藤井君、何をそんなものにしがびれているんだ？」

「あっ、いえ、先生、僕はしびれてなんかいませんよ」と藤井さんは返したものの、俺にはその藤井さんの知らぬふりが面白かった。「よし、以上だ。行くぞ」と寛齋さん一行は帰っていったが、革のカバーオールに自ら塗料と刷毛で柄を挿した寛齋さんのいでたちは、来場していた愛刀家たちをうならせていた。

さて、話はここからだ。一行四人が東銀座の当店にいらした日に話を戻す。Xさんが最後に腰に当たった袴佩風の採用、不採用の判断を寛齋さんは一瞬遅らせた。

「X君、その裁断はどうなっている。」
「先生、立体裁断です。さしずめリーバイスの〇番のような...」
「よし採用。以上だ」とこの立体裁断という言葉、俺には初めて聞く言葉だった。彼らにしてみれば専門学校一年生時代に習ったことだろうが。この年の大刀剣市会場で話を再度戻す。寛齋さん一行が帰った後、この単語の意味を教えてくださいました。この単語の奥義、陽子さんだ。このコラムのタイトル、古老というには若過ぎ、失礼ではあるが...

「産経新聞」令和6年3月12日



あけみちゃん基金に、刀剣組合30万円寄付
全国刀剣商業協同組合「あけみちゃん基金」へ、産経新聞厚生文化事業団運営「あけみちゃん基金」に30万円を寄付した写真。
寄付金は、昨年11月18日、15日に港区新橋の東京美術倶楽部で開催された刀剣、刀装束、甲冑などの展示会「刀装束、甲冑などの展示会」に出店した組合各店と入場者から寄せられた。伊波副理事長は「国内内外のたくさんの子供たちにわたす寄付を喜んで、今後も活動を続けていきたい」と話した。

14の折々 桜よー愛犬テツ丸へー 石井理子 筆者は奈良県在住



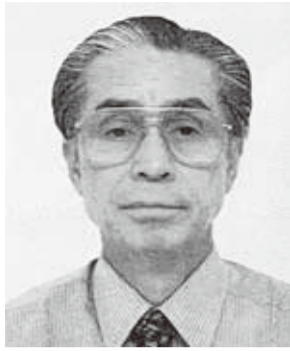
深草の野辺の桜し心あらば今年ばかりは墨染めに咲け(注釈)深草の野辺の桜よ、心があるならば、用意を示して、今年だけは喪の墨色に咲け。「古今集」上(野宮雄) 昨春、私はこの和歌が好きだと書いた。今、そのことが、とてつもない勢いで胸に押し寄せ迫ってくる。昨夏、私は十七年連れ添った愛犬を亡くした。名前は、テツ丸。血統書には、「白桜王号」という仰々しい登録名が書かれている。二〇〇六年四月六日、桜の盛りたのころ。 テツ丸がわが家にやってきて以来、桜がきれいな近所の公園で、毎年の誕生日に写真を撮ってきた。咲き誇る桜と、丸顔の愛らしい

白い柴犬。 毎年、SNSに載せては、「かわいい」「桜が似合うね」などと言われるのが、誇らしく嬉しかった。昨春も、寝たきりになっていたテツ丸をバギーに乗せて、公園に行った。そして、抱いて写真を撮った。彼が脳梗塞で倒れ介護生活になった、三回目の春だった。 「来年も桜を見るんだからね」と切に切に、祈る気持ちで撮っていた。でも、もう君はいないんだ。 「今年はどうしよう、テツ丸...」今頃、テツ丸は歴代の愛犬たちと父にまごわりついているはずだ。そして、桜が咲いたら、みんな公園を訪れるだろう。 「墨染めじゃないよ、桜色だよ」 そんな声が聞こえるかもしれない。

〈訃報〉
飯田一雄さん

平成十三年度から十六年度までの二期にわたり当組合理事長を務めた飯田一雄（いいた・かずお）さんが二月十六日に逝去された。八十九歳だった。

飯田さんは東京生まれ。昭和三十七年に刀剣春秋新聞社を設立。「刀剣春秋新聞」「愛刀」の発行のほか、日本刀・刀装具・甲冑武具などの書籍を刊行することも、鑑定・評価・評論に活躍された。パーキンソン病を患っていたが、闘病中も意識強靱で、最期まで家族に希望を語っていたという。ご冥福をお祈りします。



渡邊妙子さん

佐野美術館（静岡県三島市）の館長・理事長、公益財団法人日本美術刀剣保存協会評議員などを務め、日本刀の研究者として斯界で広く知られた渡邊妙子（わたなべ・たえこ）さんが去る二月二十四日、病氣のため逝去された。八十六歳だった。

著書に『日本刀は素敵』『名刀と日本人』などがあり、女性として日本刀研究の先駆けであったところから、近年は「元祖刀剣女子」と称されることもあった。



イベント・レポート

刀剣博物館「ふくやま美術館特別展「正宗十哲」名刀匠正宗とその弟子たち」ほか

本年一月から東京都墨田区の刀剣博物館で、二月からは広島県福山市のふくやま美術館にて特別展「正宗十哲—名刀匠正宗とその弟子たち—」が開催された。

正宗という巨匠を軸に、山城国の粟田口国綱、備前国の三郎国宗、福岡一文字助真、新藤五国光や行光などの先人たちが、さらに正宗に私淑もしくは相州伝に傾倒し、作風に取り入れたとされる「十哲」—山城国の来国次と長谷部国重、美濃国の兼氏と金重、越中国の郷義弘と則重、石見国の直綱、備前国の兼光と長義、筑前国の左文字、そして正統継承者とされる貞宗、国宝十振、重要文化財十五振を含む多数の名品が主催の刀剣博物館・ふくやま美術館のほか、林原美術館・三井記念美術館・佐野美術館・徳川美術館・永青文庫・柏原美術館といった全国の博物館・美術館から集められ、一堂に会した光景はまさに圧巻であり、普段ではなかなか目にすることが難しい文化庁や皇居三の丸尚蔵館の蔵品が拝見できたことは貴重な機会であった。

その素晴らしさは書き尽くせるものではないが、力強い姿に鮮やかに咲き誇る匂い出来の刃文を有する備前伝と、艶やかかつ妖艶になびく湧出来の刃文を持つ相州伝、三者三様とも言えるそれぞれに独特な作風を示す正宗の名物たち、包丁、菖蒲、冠落とし、片切刃や大平造といった多彩で個性的な造込みや作風を示す作品群の対比は、何度見ても楽しめる素晴らしい展覧会だった。

本展の図録は、前期の刀剣博物館では増刷後も早々に売り切れ、ふくやま美術館でのレセプション

時にもミュージアムショップでまとめて購入する人々の姿が見られた。全出品作に写真と押形が添えられ、巻末には石井彰・原田一敏・井本悠紀・月村紀乃の各学芸員がそれぞれ「相州伝の完成者正宗と正宗十哲について」「史料からみた正宗の評価」「正宗抹殺論が果たした意義を考える」「名刀匠正宗のイメージはどのように受け継がれたか—興行演目と正宗説話」と題して優れた論考が掲載されている。

正宗をテーマとした展覧会は、筆者にとっては二〇〇二年に佐野美術館ほか四館で開催された特別展「正宗—日本刀の天才とその系譜—」が印象深いが、当時も展覧会図録が売り切れ、のちにプレミア図録となって高額で売買されていたことを記憶している。まだ購入されていない方は早めに入手することを勧めたい。

昨今では各地で刀剣展覧会が増えたおかげで周遊も楽しい。筆者も、同時期に開催されていた東京国立博物館の特別展「本阿弥光悦の大字宙」、大阪の中島香雪美術館で企画展「館蔵刀剣コレクション—刀と拵の美—」続けて拝観した。当新聞などでも各地の展覧会情報を随時ご紹介しているのでも、お出かけの際にはぜひ近隣の展覧会情報を確認し、足を運ばれるのをご活用いただければありがたい。

私事であるが、実に二十年ぶりとなる多数の正宗を見比べる好機に、息子たちを連れて刀剣博物館へ二回、ふくやま美術館へ一回足を運んだ。

刀剣博物館では入館者が六千三百人を超えたという、ふくやま美

幕末の国防の中から生まれ、潰えていった那珂湊反射炉

本紙66号の「旅のつれづれに」で、葦山反射炉と江川邸をご紹介した。あれから一年たつて、日本銃砲史学会が水戸市で研究会を開くとの案内を知人からもらった。茨城県立歴史館の講堂が会場で、折から開催されている特別展「那珂湊反射炉—鉄と近代を創る—」を見て、翌日は中跡見学会だという。

前後して、「鉄の技術と歴史」研究フォーラムのメンバーを紹介し、某作家から情報の提供を求められた。その方は、警備国三春出身の医師・熊田嘉膳について調べており、特に熊田が長崎に留学した事実はないか、知りがたくなっていった。門外漢だが、水戸藩第九代藩主・徳川斉昭（烈公）の意を受けた藤田東湖に対し、反射炉の建造と操業に対応し得る人材として大島高任（盛岡藩士）・竹下清右衛門（薩摩藩士）の二人を推薦したのが熊田であるぐらいは知っていた。もっとも、主なネタ元は大島信蔵『大島高任行実』の二冊ぐらいだったのだが。

提供した情報がどれだけ役立ったのか、心許ないが、数日してお礼の品が送られてきたのは恐縮した。ただし、やりとりの中で、『水戸烈公の…』の著者が同名の大阪市長と誤解しておられたので、そこは指摘した。

関は教育者である。茨城県立湊商業学校（現在の那珂湊高校）に長く奉職し、そのかたわら、もともと同校の一隅にあった反射炉の復元運動や記念館建設等の史実顕彰に努めた。

那珂湊反射炉は安政四年（一八五七）までに二炉が完成し、ここで製造された大砲約二十門は各台

場）に握え付けられた。しかし元治元年（一八六四）、天狗党による那珂湊戦争で破壊され、灰燼に帰していた。関らの労が実って現行の模型炉が完成したのは昭和十年のことである。従って「復元炉」とは呼ばず、地元案内にあるのもあくまで「反射炉跡」である。常々思うことは、全く新しいことに挑んだ先人たちの偉さである。反射炉について言えば、オランダの軍人U・ヒューゲニンが一八二八年に著した『ロイク王立鉄製大砲製造所における鑄造法』という一冊の本との出会いにより、砲術家の高島秋帆が日本人として初めてその存在を知ったという。後に多くの蘭学者が同書の翻訳に取り組み、『西洋鉄鑄造篇』『鉄鑄全書』『鉄鑄鑄造篇』の書名で和訳本が伝わっている。それらが、いわばバイブルである。

それにしても、同書は「反射炉とは何か」を記した理論書であり、建設や操業の具体的方法には触れていない。にもかかわらず反射炉は各地で試みられ、和銃が大砲の鑄造に脆くて適さないことを知った大島は岩鉄（鉄鉱石）を原料とする高炉製鉄を決意し、わが国近代製鉄の第一歩を踏み出すのである。

この辺りの疑問を解くヒントは、鈴木一義氏（元国立科学博物館産業技術史資料情報センター長）と中江秀雄先生（早稲田大学理工学部名誉教授）の講演の中にも多々あり、大いに啓発された。

しかし、テクノクラートの才覚だけで成就するはずもない。那珂湊反射炉に

も実に多くの人々の尽力があり、西洋由来の知識や技能は皆無だが、わが国の伝承を身に付けた職人たちの参加はとりわけ加勢となった。十分にも取り立てられて大工棟梁を務めた宮大工の飛田与七、瓦職人ながら大量の耐火煉瓦焼成に取り組んだ福井仙吉、そして太田鑄物師たち……

水戸藩は反射炉建造のため、幕府から一万両を借り受けたが、借金ほそれだけではなかった。那珂湊の豪商、大黒屋木内平七は、融資した総額が三万両を超えることを明治になって記録しているが、そのうち反射炉には五千両を用立てていた。これらは廃藩置県によって、全て帳消しになった。

那珂湊反射炉事業に関わった藩士には、後に脱藩して桜田門外の変を起こし、斬首された金子孫二郎がいる。また、実務の総責任者を務め、「反射炉日録抄」と「反射炉製造秘記」という詳細な記録を残した佐久間貞介は、烈公の幽閉を機に反射炉が一時閉鎖となるや、出府して諫書を呈せんとして果たせず、自害した。

那珂湊反射炉は、烈公の国防政策の一環として開始され、激動する幕末と兵にあっていたのである。特別展はその構成・内容が素晴らしい。図録も秀逸の出来である。百聞は一見にしかず。満足のいく二日間だった。（土下民夫）

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16
岩月ビル2階
株銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
<http://www.taibundo.com>

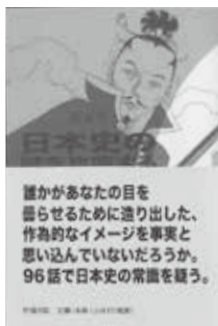


ふくやま美術館の正宗十哲展オープニング風景



那珂湊反射炉と大砲（模型）

ブック・レビュー BOOK REVIEW



その説、ただの思ひ込みじゃないですか？

『日本史の謎を攻略する』『思ひ込みの日本史に挑む』

松尾光 共に定価(一六〇〇円十税) 笠間書院

一寸法師、極小だけ機転の利く勇者だったか、それとも策を弄する嫌な奴だったのか。玉手箱を開けておじいさんになった後、浦島太郎はどうなった？

石田三成が関ヶ原の戦いで敗れたのは必然だった？有名な「泰平の眠りを覚ます」の狂歌がリアルタイムの作ではなかった？「人の一生は、重荷を負いて遠き道を行くが如し」…徳川家康、実はそんなこと一言も言っていないの？

人間は考える輩である、昔の人は言った。が、人間、合理性を重んじるあまり、時に理屈が通り、理にかなっていても、つい正しいと信じてしまふことがある。「こうだとすれば辻褄は合うし、納得だよな」という調子で、腑に落ちる説明に思わず納得してしまうのである。

それが他愛のないことであれば、そのままでもよいが、わが国の歴史にまつわることであれば、それは時

にまつわることであれば、それは時

日本刀研磨技術は、古作・現代作にかかわらず刀剣全体の価値を支えるものであり、日本の重要な観光資源である日本刀文化全体に関わることから、研磨部門が観光庁長官賞の交付にふさわしいという。

第十四回展は六月八日(土)～九月十六日(月)に開催される。会場は坂城町の展示館。〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城六三三-二 ☎0268-18214193

に悪しき思ひ込みとなり、歴史や民族性が誤解されてしまう。そして思ひ込みの元を正せば、実は政治的な勝者や戦争の勝者が、自らの正統性を主張するべく作り上げた物語だったにもなる。

松尾氏はそうした日本史にまつわる思ひ込みを原初・古代から中世、近世、近代にわたり、問題点を明らかにし、本当はどうかだったのか、一緒に考えようとする。

取り扱われたテーマはさまざま。邪馬台国の所在地を巡る問題の背景になる政治的な思惑に始まり、万葉集の歌にまつわる有間皇子の逸話、偉大過ぎて唐招提寺に追いやられた鑑真、国風文化なんて存在しないんじゃないのか…。

これまでも信じられてきた歴史上の出来事に関する評価や理解が、実は根拠のない思ひ込みであった可能性が言及されており、しかも根拠もあり、説得力がある。著者の専門の古代史関係のテーマは特に読み心えがあるが、専門外の時代の事柄も、松尾氏は最新研究を紹介しながら鋭く踏み込んでいる。

そして一編一編は短くまとめられていて、とても読みやすい。しかも淡々としながらも、ずばっと切り込んでくる。「松尾節」は読み進むにつれ、何やら癖になってくる。そして歴史って面白いなあと、あらためて実感する。

学問は先学の不備や説明不能な部分に関心をもち、それを乗り越えようとする姿勢、いわば批判精神が大切である。松尾氏の思ひ込みとの戦いもいさなり。ただし、松尾氏のこうした指摘と検討を、「重箱の隅をつついているだけだ」と批判する人もい

るかもしれない。その点は松尾氏も自覚しており、『思ひ込みの日本史に挑む』の後書きでこう述べている。

『思ひ込み』から解放されたら、どんな理解になり、どんな歴史像・社会像が描けるのか(中略)『時代像を置き換えてみせる』といえは、大言壮語・妄言となり、『やらぬ』といえは、しせん批判をこととする

な絵になるのか、誰も知らないのかもしれない。

長年、歴史学研究と教育に携わって来た松尾氏も、そんな思ひ込みを胸に秘めながら少しづつでも前進してきたのであろう。そして今なお、歩みを進めている。

筆者は年明け、松尾氏が『歴研よこはま』という小冊子に寄せた「不合理な解釈ではないか、最澄の躊躇」と題する小論を拝受した。奈良・平安時代の仏教戒律、教理への理解や僧侶たちの動向に関する論考。松尾氏は、壮大な仏教の教義について、最澄も含め、本当に理解していた人は誰もいなかったのではないかと推考する。

そんなわけがない、高僧たちが教義を理解してないわけなからう、という前提で、いくらか合理的な考察を試みても無理があるのではないかと。松尾氏の視点と発想はやはり斬新。松尾節は今も健在だし、これからも意

な絵になるのか、誰も知らないのかもしれない。

松尾光(まつお・ひかる) 一九四八年、東京都生まれ。学習院大学文学部史学科卒業。学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程満期退学。博士(史学)。神奈川県立高等学校教諭。高岡市万葉歴史館主任研究員・姫路文学館学芸課長・奈良県万葉文化振興財団万葉古代学研究所副所長、中央大学文学部・早稲田大学商学部で非常勤講師。『白鳳天平時代の研究』『古代の神々と王権』『天平の木簡と文化』『現代語訳魏志倭人伝』など多数。

松尾光(まつお・ひかる) 一九四八年、東京都生まれ。学習院大学文学部史学科卒業。学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程満期退学。博士(史学)。神奈川県立高等学校教諭。高岡市万葉歴史館主任研究員・姫路文学館学芸課長・奈良県万葉文化振興財団万葉古代学研究所副所長、中央大学文学部・早稲田大学商学部で非常勤講師。『白鳳天平時代の研究』『古代の神々と王権』『天平の木簡と文化』『現代語訳魏志倭人伝』など多数。

松尾光(まつお・ひかる) 一九四八年、東京都生まれ。学習院大学文学部史学科卒業。学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程満期退学。博士(史学)。神奈川県立高等学校教諭。高岡市万葉歴史館主任研究員・姫路文学館学芸課長・奈良県万葉文化振興財団万葉古代学研究所副所長、中央大学文学部・早稲田大学商学部で非常勤講師。『白鳳天平時代の研究』『古代の神々と王権』『天平の木簡と文化』『現代語訳魏志倭人伝』など多数。

松尾光(まつお・ひかる) 一九四八年、東京都生まれ。学習院大学文学部史学科卒業。学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程満期退学。博士(史学)。神奈川県立高等学校教諭。高岡市万葉歴史館主任研究員・姫路文学館学芸課長・奈良県万葉文化振興財団万葉古代学研究所副所長、中央大学文学部・早稲田大学商学部で非常勤講師。『白鳳天平時代の研究』『古代の神々と王権』『天平の木簡と文化』『現代語訳魏志倭人伝』など多数。

松尾光(まつお・ひかる) 一九四八年、東京都生まれ。学習院大学文学部史学科卒業。学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程満期退学。博士(史学)。神奈川県立高等学校教諭。高岡市万葉歴史館主任研究員・姫路文学館学芸課長・奈良県万葉文化振興財団万葉古代学研究所副所長、中央大学文学部・早稲田大学商学部で非常勤講師。『白鳳天平時代の研究』『古代の神々と王権』『天平の木簡と文化』『現代語訳魏志倭人伝』など多数。

NEWS & TOPICS 刀文協のコンクールに 観光庁長官賞が交付される

財団法人日本刀文化振興協会(大野義光理事長、以下「刀文協」)では現在、第十四回「新作日本刀研磨外装刀職技術展覧会」への出品を募集中であるが(作品受付は四月二十一日、坂城町鉄の展示館にて。送付も可)、この度、同展の授賞に新たに「観光庁長官賞」が加わることになった。

刀文協では明治神宮展を初回として、過去二回の観光庁後援の実績を基に、新たに観光庁長官賞の授与を申請していたところ、実現したものの。

観光庁に対して訴求し、理解されたのは、刀文協によれば次のような内容であるという。

①日本刀は国宝指定の工芸品の過半数を占めており、日本刀文化は日本人の精神性、日本の伝統、歴史を象徴するものである。

②近年、日本各地の日本刀を鑑賞し、さらに作刀の見学、美術品としての現代刀の購入を行う外国人が増加している。

③日本刀文化は、多分野での人的交流の拡大に向け価値を創造・発信する新たなインバウンドの振興における重要な要素である。

④高付加価値化や消費額の拡大といった今日の観光政策上の課題への対応を支えることが期待される重要な観光資源でもある。

なお、従来、他省庁から交付されている同展の授賞として、分野を対象とする文部科学大臣賞と、個別に作刀を対象とする経済産業大臣賞があるが、観光庁長官賞は新たに研磨部門の最高賞として授与される。また、観光庁の後援名義も併せて使用される。

な、従来、他省庁から交付されている同展の授賞として、分野を対象とする文部科学大臣賞と、個別に作刀を対象とする経済産業大臣賞があるが、観光庁長官賞は新たに研磨部門の最高賞として授与される。また、観光庁の後援名義も併せて使用される。



昨年の展覧会場風景(佐野美術館)

NEWS & TOPICS 日本刀の「幻のコレクション」が九州国立博物館に!

平安時代の太刀から近代の礼装用短剣まで、日本刀の歴史をたどれる特集展示「日本刀の美―北崎徹郎の愛刀―」が一月三十日(火)から四月十四日(日)まで福岡県太宰府市の九州国立博物館で開催され、大きな話題を呼んだ。

「備前刀へのこだわり」「五大産地への関心」「九州刀工へのまなざし」の三テーマで展示されたのは三十一一点。いずれも北九州市で医院を営んでいた北崎徹郎さんが収集したもので、一昨年、八十二歳で他界した後、遺族が本人の遺志を受けて同館に寄贈し、初のお披露目となった。

北崎さんは高校生のころから日本刀に強い関心を持ち、医師の仕事に就いてからは地域医療に注力するかわら、熱心に収集を進めた。妻・美智子さんと一緒に

九州国立博物館の刀剣の所蔵数は、今回の寄贈により、ほぼ倍増。刀装具などを含む刀剣類としては約百件を数え、質量ともに充実するところとなった。



にしばしば刀の産地を訪ねることもあったという。展示を担当した望月規史・同館主任研究員(金工史)は、「ただ数を追うのではなく、ご自身の広い視野と系統だった方針に基づいて収集されていた。当館にとって今後の刀剣展示の根幹となるコレクションです」と語る。

Table with 3 columns: No., 作品名称, 時代. Lists various Japanese swords and their eras.

Table with 3 columns: No., 作品名称, 時代. Lists various Japanese swords and their eras.

特別寄稿

■ 3月13日、坂城町鉄の展示館（長野県）に2振の刀が寄贈された。製作から70余年にして姿を現した幻の講和記念刀一。その顛末と思いを刀匠の遺族に綴ってもらった。

兄弟刀工が遺した「講和記念刀」

井原 輝義

かつて日本刀鍛錬所であった建物を整理していたら、神棚にしまわれていた刀2振を発見した。裸身で研いだ形跡もなく、表面は真っ黒である。ナカゴに銘が切っており、「講和記念 武蔵国源〇〇鍛之ノ昭和二十七年八月日」と読める。〇〇にはそれぞれ製作者の輝吉（父、後に輝日天と改銘、本名井原福太郎）と輝秀（伯父、本名井原亀太郎）の名がある。幸い、翌年発行の登録証が付いていた。

兄弟はともに昭和11年ごろ、栗原彦三郎昭秀師の主宰する日本刀鍛錬伝習所に入門。その縁から、戦後の講和記念刀奉獻事業に率先して参加したのであろう。第26工場の責任者として輝秀の名が挙がっている。

講和記念刀とは、日本の独立に際し、「永遠の平和を祈念し」「日本精神の象徴たる日本刀が侵略の凶器にあらずして平和鎮護の靈器であること」を世界に訴求しつつ、関係各国の高官や主たる神社に献呈しようと栗原師が提唱したものである。27年3月にGHQから武器生産を例外的に認める覚書があり、これを受けて省令の一部が変更された。栗原師はこの機を捉え、講和記念刀奉賛会を組織して通商産業大臣に日本刀の鍛造を申請、300振を69工場で製作することが許可された。

残念ながら、栗原師の病没により事業は成就せず、集まっていた作品は一門の宮入昭平・天田昭次両刀匠らによって製作者に返送された。その数は200振に及ぶと想像されるが、今、市場でもほとんどその姿を目にするのではないという。

しかし、講和記念刀は戦後の作刀の起点の1つであり、作刀制度創設の原動力になったと語られると聞く。その作品は、歴史を語る貴重な文化財として保存されることを期待するものである。

2振の発見を機に少しずつ調べるうちに、実に多くのことを学ばせてもらった。伯父や父を知る親族も高齢化する中で、身内の遺作ではあるが私蔵し続けることを断念し、その生かし方を株式会社刀剣柴田の柴田光隆社長に相談したところ、縁あって今回、坂城町鉄の展示館で受け入れてくださるところとなった。

日本刀の歩んできた近代の厳しい足跡と、兄弟刀工が結んできたえにしを偲びつつ、今はほっとした心境である。

講和記念刀2振を寄贈した井原輝義氏（中央）と、宮入小左衛門行平刀匠（右）・時信武史学芸員（左）



本年一月に創立三十周年という節目を迎えた名刀会は、去る一月二十四日に静岡県熱海市の「あたみ石亭」において記念大会を開催しました。

今回の記念大会には全国から多くの会員や客員が集まり、節目にふさわしい大変賑やかで活気にあふれる会となりました。珍しい冬の熱海での大会とあって、窓の外には一時雪もちらつきましたが、会場は寒さに負けない熱気に包まれ、長らく代表を務められていた高橋歳夫氏の挨拶の後、まずは競り売り、昼食を挟んで入札、再び競りと、参加者の皆さまが持ち寄った優品の数々が夕

方まで続々出品され、終始目が離せませんでした。出来高も記録的な数字となり、新年一月から、名刀会にとってまた刀剣界全体にとっても非常に良いスタートとなりました。三十周年、誠におめでとございます。名刀会の今後ますますのご発展を心から祈念いたします。（生野直輝）



名刀会記念大会に参加された皆さん

NEWS & TOPICS

「江雪左文字」の銅像が完成

ゲーム「刀剣乱舞 ONLINE」に登場する江雪左文字のキャラクターが、銅像になって広島県福山市の福山城公園プロムナードに現れた。

国宝の江雪左文字は、同地の(株)エフピコの創業者で、福山市の名誉市民でもあった故小松安弘さんが所有していた。その後、小松さんの遺志を継いだ妻の啓子さんが、2018年に江雪左文字を含む国宝など14点を福山市に寄贈。銅像設置に当たっては、「刀剣の魅力を知ってほしい」と啓子さんが制作費として100万円を贈っている。



「登録証問題」を考える 34

事例 48

昭和二十六年某県発行登録証は、刃長記載が二尺一寸四分〇厘であるのに対し、台帳の記載が二尺一寸四分五厘であった。その他の事項はすべて一致。相違の原因は人的ミスと思われるが、その刃長五厘（一・五mm）の相違について、当県鑑定となる現物確認審査の指示を受けた。

その理由は、当該登録証は、登録制度が開始された昭和二十六年の三月十五日発行である。この年に発行された登録証の中には「厘」部分を空白にしているケースも散見する。最小目盛が一分（三mm）の剣尺を使った目測で「厘」の正確な記載は不可能であり、徹底されていなかったと思われる。

しかしながら、「すべて登録審査会で現物確認をしないと登録証の訂正判断はできない」と安易に現物確認を指示することは、あまりにも専門性を欠く対応ではないだろうか。



旧登録証（右）と再交付登録証

目測による測定は、見る角度で容易に一〜二mmずれる。現在のメートル法で一厘は0.3mm。現物と登録証記載の刃長「厘」単位のずれは許容範囲と解されている。現物確認審査はセンチメートルで測定、報告される。尺貫法を使わない現在において、厘の相違をセンチメートルで現物確認することは整合性を欠いてしまう。

担当部署の裁量で、現物確認を不要とする場合があるという考え。特に、内閣総理大臣認可の全国刀剣商業協同組合員の所有者変更届においては、申請者であるわれわれの知見と信頼性を考慮の上、特段の対応があつてよいと考える。また、ITが進歩した現在、現物確認審査の柔軟対応、例えば画像送信による容易な確認で済ませることを許容してもよいのではないだろうか。

そのため、前記を訴えるとともに、台帳の記載内容（刃長・反り・目釘穴・銘文・彫刻・刃文）がおおむね確認できるように剣尺を当てた現物と登録証の画像を某県教育庁担当課に送付し、確認を受けた。すると、担当課より登録審査

委員と協議すると言われ、協議した結果、「（画像では）現物と一致しているか確認が取れない」と判断されたので、再度、現物確認審査の指示を受けた。やむを得ず指示に従い、当県の登録審査会で現物確認を受けたところ、「現物は台帳記載事項と一致する」結果が当県より某県に報告がなされ、結局、某県より登録証の訂正交付を受けた。現物確認審査を受けた時に、本件の概要を当県の登録審査委員に説明すると、「悪さを働く輩がいるので、万全を期す対応が取られたのでしよう」との意見であった。現状は、誤字・脱字・目盛の読み違い等で現物が登録証・台帳と相違していることが頻繁にある。だから、現物と登録証および台帳の何が正しいか確認を行う現物確認審査が必要であることは理解している。

催事情報

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3-12-1 ☎0776-21-0489
http://www.history.museum.city.fukui.fukui.jp/

越前百万石ものがたり～福井藩祖・結城秀康～

福井藩祖・結城秀康は徳川家康の二男として生まれ、羽柴（豊臣）秀吉の養子となり、さらに関東の名族・結城家を継承した人物でした。関ヶ原の戦いに際し、秀康は関東周辺の徳川家に味方しない勢力を抑えます。その功績が評価され、秀康は越前一国を支配する大大名となり、北庄城（福井城）とその城下町を築くなど現代の福井市街地の原型をつくりあげました。また、後に秀康の子どもたちも大名となり、親藩の名門として最盛期には一族全体で100万石を超える領地を支配しました。



本展では、北陸新幹線福井駅開業と結城秀康生誕450周年を記念し、多くの資料を基に後世にも影響を与えた秀康の生涯についてご紹介します。

また本年は、秀康ゆかりの地の3つの施設（福井市立郷土歴史博物館・福井県立歴史博物館・結城蔵美館（茨城県結城市））が、協力・連携して秀康の生涯をたどる展覧会やイベントを展開します。

会期：3月20日(水)～5月6日(月)・休

柏原美術館

〒741-0081 山口県岩国市横山2-10-27 ☎0827-41-0506
https://www.kashiwabara-museum.jp/

新々刀名工 氷心子秀世 / 和楽器 江戸の音色

会期：3月20日(水)～7月21日(日)



あべのハルカス美術館

〒545-6016 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階
☎06-4399-9050 https://www.aham.jp/

徳川美術館展「尾張徳川家の至宝」

徳川家康の九男・義直（1600～50）によって創始された尾張徳川家は、名古屋城を居城とした大大名で、紀伊徳川家・水戸徳川家とともに御三家の一つに数えられていました。徳川美術館は、その尾張徳川家に伝えられた大名道具を有しており、その所蔵品は家康の遺品「駿府御分物」をはじめ、歴代当主や夫人たちの遺愛品など一万件余りに上ります。



本展では、数ある名品の中から、甲冑や刀剣など武器のほか、茶道具や香道具、能道具、婚礼調度、書画などを通して、尾張徳川家の歴史と華やかな大名文化をご紹介します。現存最古の源氏絵である国宝「源氏物語絵巻」と、三代将軍家光の長女千代姫が尾張徳川家に嫁ぐ際に持参した国宝「初音の調度」という、同館コレクションの精華というべき存在であり、日本を代表する名品も特別出品されます。

会期：4月27日(土)～6月23日(日)

刀剣ワールド名古屋・丸の内

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-1-33
https://www.touken-world.jp/event/

室町時代の刀たち

室町時代は太刀から打刀へと変遷した時代。腰から下げて佩用する太刀は馬上戦に適していましたが、室町時代中期より徒歩戦が主流となったため、接近戦に強い打刀が流行しました。



本展では、刀剣の歴史において転換期である室町時代の代表的刀剣「応永備前」「末備前」「村正派」の作品をご紹介します。

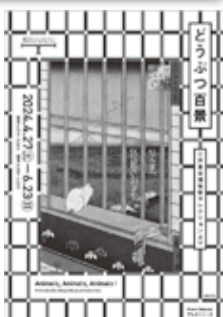
会期：3月1日(金)～6月28日(金)

東京ステーションギャラリー

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1 ☎03-3212-2485
https://www.ejrcf.or.jp/gallery/index.asp

どうぶつ百景 江戸東京博物館コレクションより

江戸幕府創設からおよそ420年。江戸は巨大都市として発展し、京都、大坂に並ぶ三都のひとつとなりました。大都市江戸・東京に暮らした人々は、どのように動物とかかわってきたのでしょうか。それを物語る美術品や工芸品など約240件を、江戸東京博物館のコレクションから選りすぐって紹介します（会期中展示替えがあります）。



本展は、2022年にパリ日本文化会館（フランス）で好評を博した「いきもの：江戸東京 動物たちの暮らし」展を拡充した凱旋帰国展です。画卷、錦絵、装飾品、郷土玩具などに登場する動物たちの多様な姿をお楽しみください。

会期：4月27日(土)～6月23日(日)

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町26-1 ☎075-761-4111
https://www.momak.go.jp/

没後100年 富岡鉄斎

世に「最後の文人画家」と称えられる富岡鉄斎（1836-1924）。幕末、京都の商家に生まれた彼は、近世都市の商人道徳を説いた石門心学を中心に、儒学・陽明学、国学・神道、仏教等の諸学を広く学びながら同時に、南宗画・やまと絵等をはじめ多様な流派の絵画も独学し、深い学識に裏付けられた豊かな画業を展開しました。良い絵を描くためには「万巻の書を読み、万里の路を行く」ことが必要であるという先人の教えを徹底して守ろうとした彼は、何を描くにもまずは対象の研究に努め、北海道から鹿児島まで全国を旅して各地の勝景を探りました。そうして胸中に思い描かれた理想の山水を表出し、人間の理想を説いた鉄斎の絵画は、画壇の巨匠たちから敬われ、京・大阪の町の人々に広く親しまれただけではなく、むしろ新世代の青年画家たちからもその表現の自由闊達で大胆な新しきで注目され、生前から今日まで国内外で高く評価されてきました。



幕末に人格を形成して、明治初期には神官として古跡の調査と復興に尽力し、やがて官を辞して市井の画家として生き、1924（大正13）年の大晦日に数え年89で亡くなった鉄斎は、2024（令和6）年末で没後100年を迎えることになります。この度の展覧会では、この記念の時に向け、彼の画業と生涯をあらためて回顧します。名作として繰り返し取り上げられてきた作品はもちろんのこと、名作として知られながらも名作展では目にする機会の乏しかった作品や、近年になって再発見され、あるいは新たに見出された作品などもご覧いただけます。また、京都御所の近所の、室町通一条下ルに邸宅を構えていた彼の書斎（画室）を彩っていた文房具や筆録（旅行記や研究用メモ）等も取り上げ、都市に生きた彼の日常も、垣間見ていただこうと考えています。

文人画というと、何か難しい世界のように思われがちですが、鉄斎の生きた時代にはむしろ縁起物として都市の商人たちの中で親しまれていたともいわれます。京都では27年ぶりの開催となる展覧会が、鉄斎に親しんでいただく機会ともなれば幸いです。

会期：4月2日(火)～5月26日(日)

〈巡回〉富山県水墨美術館 7月12日(金)～9月4日(水)

碧南市藤井達吉現代美術館 10月5日(土)～11月24日(日)

大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728
https://www.osakamushis.jp/index.html

特別企画展「おおさか街あるき—キタ・ミナミ—」

今、私たちが見ている大阪の街は、歴史が隣り合い、積み重なることによって生まれたものです。街を歩くことは、そんなさまざまな歴史をつないでみることであり、普段何気なく見ていたスポット一つ一つの由来を知ること、街あるきの大きな魅力といえます。私たちは街あるきを通してあらためて街を見つめ直し、その歴史や文化、言い換えれば街の懐の広さを知ることができるのです。



本展では、大阪を代表する繁華街であるキタとミナミを取り上げ、街歩きをするかのように具体的なルートを示しながら、それぞれの場所につながる館蔵資料や関連資料を通じて、街の魅力に迫ります。街を描いた絵図、歴史を示す古文書、解体時に残された建築部材などは、キタとミナミのどんな姿を映し出してくれるのでしょうか。“過去”と“今”をつなぐ小旅行に皆さまをご案内します。

会期：4月19日(金)～6月3日(月)

Domestic largest snake sword exhibition poster. Title: 国内最大の蛇行剣 剣と刀の「二刀流」. Subtitle: デザイン併せ持つ構造. Main text: 奈良市の富雄丸古墳 (4世紀後半、円墳) で出土した国内最大の蛇行剣... 奈良で出土 初公開へ. Includes diagrams of the sword and a photo of the artifact.